

株式会社さくら都市総合研究所

主席 清水 秀幸
主研究員

17 都市の景観を考える

それでは、現代の文化・芸術振興の有因子とは何か。それは人口減少・超高齢社会の到来、低調長引く社会経済など、ややもすれば殺伐とした時代の中に、豊かな心を取り戻そうという民意に根ざすところが大い。

また、観光振興や交流人口の増大を目的とした都市やまちのブランディング・ツールとして考えられている場合も多い。実際に多くの自治体で、国の奨励も含めた内容の「文化芸術振興計画」が作成され、あらゆるジャンルの文化芸術振興策が具体化を始めている。

長野市においても、

「魅力あふれる文化の創造と継承」を政策スローガンに、地域や環境の創造、賑わいの創生、活力ある街づくりといった、文化芸術を通じた総合計画の具体化が進行しつつある。しかし、こと「音楽」の分野は、意識の高揚という面で、道半ばという感否めない。

昨年春にオープンした長野市芸術館が取り組む「アートメントNAGANO」は、今回で2回目となる催し。同市芸術監督に就任した久石讓氏の監修のもと、10日間の日程でクラシックや現代音楽・映画音楽など多彩なプログラムが用意され、

同時にその期間中、市民有志により企画された街なか音楽イベント「フリンジ長野」も開催された。この催しは、長野市民へ「日常に音楽を」というテーマに沿った一大イベントであった。

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか6委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



昨年春にオープンした長野市芸術館